

本「人のさいご」を用いて死にゆく過程を伝える

P4-5

林 瞳⁽¹⁾ 國居早苗⁽¹⁾ 尾山直子⁽¹⁾ 神野真実⁽²⁾

(1)桜新町アーバンアーバンクリニック (2)株式会社メディヴァ

【はじめに】

日本人は約8割が病院もしくは施設で亡くなっており、死にゆく過程を在宅で経験し知る機会が少ない。今回、患者本人も家族も読める、をコンセプトとした終末期の過程をまとめた本、「人のさいご」を発行した。

当院スタッフが実際に臨床の場で本を使用しケアを行った事例を報告する。

「人のさいご」は、看取りの場で出逢った人々から「人は死ぬ時にどう変化していくのか」と問われてきた経験から制作した本

当事者である本人を含むあらゆる人が読むことができる、をコンセプトとしており人がどのように老いどのようにいのちを閉じていくのか、人の最期の自然な経過を優しい絵とていねいな言葉で綴っている



事例① 自宅看取りの家族へのケア

背景

80歳代女性、子宮体癌StageIVBの患者、長男夫婦と同居
診断後化学療法施行するがPD判定で治療は終了、訪問診療が開始。初回訪問時の予後は数日～1週間程度と予測された

本を渡した対象者

別居している次男



頻回に患者宅へ訪問しているが表情が硬く不安が強い様子であった。「終末期のイメージがわかりません」「食べられないのですが点滴はしなくていいのですか」との発言が聞かれた

担当医師・同行看護師のアセスメント

- ・次男は母親の予後が短いことは知っていたが看取りへの理解とイメージが湧かない様子で、別居のため母親の状態がわからず不安が強まっている
- ・状態や今後のことを説明しても拒否するような態度もあり言葉選びや説明方法は慎重に行っていく必要があった
- ・直接多くの情報を説明するよりも息子自身のタイミングと選択で本を読み最期のことを知ってもらえたらと考えた

本を渡した状況

読んでもらえるかどうかわからなかったが「これからのことが書かれている本。無理せずよかったら家族で読んでほしい」と説明すると了承されたためお渡しした

その後の経過

本を渡して5日後に患者は逝去。他の家族は外出中で次男一人という状況での呼吸停止だったが落ち着いた様子で連絡がきた。死亡確認時も落ち着いており「家族で本を読みました。あの本の通りですね。慌てずに見ることができました。母といい時間を過ごさせてもらいました」と話した。

事例②『老いへのつらさ』を抱える高齢者へのケア

背景

90歳代女性、圧迫骨折後の患者、独居(敷地内に長男家族在住)主に長男の嫁が患者宅へ毎日訪問しているが、室内でのADLは自立している

本を渡した対象者

本人



少しずつ手伝いが必要となっている状況に落ち込む様子があった。「老いをどう捉えればいいのかわからない」「周りに迷惑をかけたくない」という発言が聞かれた

担当看護師・理学療法士のアセスメント

- 訪問看護での関わりの中で
 - ・先のことや自分自身のことを普段からよく考えている人である
 - ・以前もACP関連の冊子を渡し理解が良好だった
 - ・長年自宅で夫を介護し自宅で看取った経験があり、本の内容や主旨を理解できると予測
- 以上のことから本を読むことで今のつらさの緩和に繋がるのではないかと考えた

本を渡した状況

本の説明をしたところ「ぜひ読んでみたい」との希望があったため自身のタイミングでゆっくり読んでもらった

その後の経過

老いについて理解できたと話し「みんなそうなんだと思えた」「(読んでいて)やさしさに包まれるようだった」「体が思うように動かずわかっているがもどかしい。でも今日から切り替えて今を大切に生きよう」「嫁にも読んで知ってもらいたい」との言葉が聞かれた。

【考察】

- ▶ 看取りに向かう家族が本を読み「死にゆく経過はこういうものである」と認識できたことで最期の時間を穏やかに見守ることに繋がった。別れの時間を「いい時間」と発言できたことは悲嘆へのケアにもつながると考える。
- ▶ 「老いを感じる」というスピリチュアルな痛みを持つ患者において、最期の過程を知ることによって老いを自然な事と捉えることができ、つらさの緩和とこれからの時間の過ごし方を考えるきっかけとなった。
- ▶ 人の最期はネガティブな内容と捉えられることが多いがその過程を知ることが一つのケアとなり、つらさや痛みの緩和につながる可能性がある。それは「伝え方」も重要な因子の一つであり、最期の過程という繊細な内容を本を通して自身のタイミングで読み文章や絵で視覚的に伝えるという効果もあったと考察する。
- ▶ 事例のように看取りの過程にある対象者に対して最期の過程を伝えるツールを渡す際は担当医療者の適確なアセスメントが必須であり、その上でのケアが求められる。

第30回日本緩和医療学会学術大会
COI 開示

演題名：本「人のさいご」を用いて死にゆく過程を伝える
発表者名：林 瞳

演題発表内容に関連し、
主発表者及び発表責任者には、
開示すべきCOI 関係にある企業等はありません。

連絡先 / 桜新町アーバンクリニック

